

令和 6 年度 文化財防災訓練等実施状況報告

都道府県名

鳥取県

行 事 名 称	第 7 1 回文化財防火デー 国指定重要文化財不動院岩屋堂消防演習
実施期間・日時	令和 7 年 1 月 2 6 日（日） 9 : 0 0 ~ 9 : 3 0
実 施 場 所	国指定重要文化財不動院岩屋堂（鳥取県八頭郡若桜町岩屋堂 2 1 4 - 1）
主 催 者	若桜町、八頭消防署若桜出張所、若桜町消防団（第 3 分団、第 4 分団）、岩屋堂自警団

■実施内容

訓練の想定

当日の気象状況は、南の風、陸上の最大風速は、15～20mである。
たき火が折からの強い風にあおられて、重要文化財不動院岩屋堂に飛び火し、延焼中である。

訓練の内容

火災時における消防団の運用、特に指揮、連絡、通報、報告訓練を実施。

参加者及び役割分担

岩屋堂自治会・自警団（9名）：火災発見、119 番通報
八頭消防署若桜出張所（6名）：全体統括、放水訓練、講評
若桜町消防団 本部（2名）、第 3・4 分団（16名）：団員統括、放水訓練、交通整理、講評
若桜町総務課（4名）：町防災無線、総務、現場立会
鳥取県文化財保護指導委員（1名）：現場立会

特に工夫した点

放水は建造物方向には行わず、発煙筒による火点を別の場所に設定して行った。
放水に使用する水は付近の消火栓のほか、付近を流れる吉川川を水利として実施した。

問題点・課題

冬期間は積雪、除雪等によって路肩に雪が積み上がり、道路幅員が減少して通常より自然水利の確保が困難となる場合がある。また、積雪時の自警団等による消火栓の掘り起こしなど日常点検が重要となる。

その他

町内への防災無線による訓練放送、消防車がサイレンを鳴らして走行することで、町民の文化財に対する愛護意識、防火意識の高揚を図る効果が期待できる。

訓練風景

